

語ってねト  
いいオトコになろう!

## 男性へのLOVEレター

今、オトコの独り料理、オトコの得意料理などという“オトコ”のと、付いた料理本が売れているのだそうです。そういう私も買ってしまった一人です。巷でワンサカある主婦向けの料理本より、とても実用的にわかりやすくポイントをおさえてあります。こういう本を購入し、実践している人は、少なくとも自立に目覚めたステキな男性なのかもしれません。

“いいオトコ”とは？何年か前まで、外見重視の時代がありました。今は女性陣の見る目も厳しくなっています。

男性、または夫婦で参加できる蕎麦打ち体験に参加したことがあります。蕎麦を夢中で打つ元気な男性陣が、いっぱいいました。食後の片付けで女性の活躍もありましたが、「男性のみなさん！洗い物も率先してやりましょう」と主催の方の声がかかる、見よう見まねながら一生懸命片付けをし始め、頼もしく感じました。

もし、家庭のなかで、気付かぬうちに性別役割分業が根付いてしまっているのなら、ほんの少し、お互いの意識を変えていきたいと思えます。

何年か前の、3高（高学歴、高収入、高身長）がもてはやされた時代は終わり、今は、例えば料理を自ら率先して楽しんで作ったり、そんな暮らし方にも余裕がある人がステキに見えます。

お互いを対等に認め合い、精神的にも自立しているオトコのヒトこそ、ステキではありませんか？

（久保田）

## ピカピカの換気扇

男性がくれたお茶を初めて飲んだのは、社会人1年目のことだった。両親を紹介したいと恋人に言われ、緊張の面持ちで家を訪ねた私にお茶を出してくれたのは、彼のお父さんだった。茶碗には茶托が据えられ「ゆっくりしてゆっくりください」のひと言葉まで添えられた。私の父は何もしない人だったので、しばらくこの出来事を、感動をもって多くの知人に話したものである。

これがこの家の日常だと分かったのは3年後、めでたく結婚してからである。換気扇の掃除や障子の張り替えは義父の仕事らしい。特に休みごとに磨かれる換気扇はいつもぴかぴかで、感心させられる。「換気扇洗った日は決まって揚げ物が食べたくなるの」と笑うのは義母である。食事後は「お皿そのまま置いて」と笑うのはお父さんが片付けるから。うらやましい言葉だ。しかも義父はけっこう楽しんでやっているように見える。

こんなふうにまくやっていると、何か秘訣があるのだろうか。私が冗談まじりに尋ねると、義父は酒盃片手に言った。

「俺はな、毎晩寝る前、お母さんに『今日も1日ご苦労様。明日もよろしくお願いします』と言うんだ」

念のため義母にも確認したが、本当に毎晩そう言うのだそうだ。そして義母自身も、他人に幸せそうねと誉められると、自分の夫が目の前にいようと、いと、照れることなく答える。

「そりゃそうよ。お父さんがいいからね」

結婚して30余年、けんかもしただろうが、こんな信頼関係が保てるのは、感謝を言葉に表してきたこともあるのだろう。

さて、実際自分が夫にそんな言葉をかけようとする、妙に照れくさい。この夫婦に近づけるのはいつのことだろうか。

（永野）

## 男の料理

さて、今日の夕飯の献立では、炊き込みチキンピラフに豆腐のクラタン、破豆に、くらげとキュウリのあえものです。実はこれ、夫の私を作るメニューです。特別にキパッて作っているわけではなく、おっとと失礼枝豆が煮えたし。てな具合です。

週の肉、三、四回作っているでしょうか。特に日曜日は「ましがいなく私の担当。子どもたちも、「今日の料理、誰が作ったま〜」と言います。じゃあ妻は共働きなのかと言うとさにあらず、専業主婦です。彼女に言わせれば、「お父さんは料理が趣味だから特種」と、別に感謝する気でもありません。くやしけれど、その通り、料理させていただくのは私のストレス解消法です。

とは言え、最近男女共同云々と言うときに、たいへん気になることがあります。それは、そう言うときの前提は必ずと言っていいほど、共働き夫婦のことを言うときなのです。専業主婦は夫に家事を分担させなくてもよいのでしょうか。

ちなみに私は、掃除、洗濯、子どもの勉強等、大方は参加させていただいております。

それともウチの家内はたくいまれなる悪妻なのでしょうか。いやそうに違いはない。

話がますますなってきたので話題を変えましょう。私は法人会青年部に所属していますが、前回の例会では、料理学校を借りて「家族に役立つお父さん〜男の料理教室」が開かれました。まだまだ、家庭で料理など作ったことがないお父さんが多数派の中で、この料理教室は波紋をひろげました。

先ほどスーパ〜へ行きました折に感じたのですが、本当に増えました。スーパ〜をうるつく男の姿。そういう時代になってきつつあるんです。いいじやありませんか。おっと豆腐のクラタンを準備そうだし。じゃ生礼!

(前田)

郵便はがき

4 2 2 8 0 6 3

50円切手  
をお貼り  
ください。

静岡市馬淵1丁目17-1  
静岡県女性総合センター  
『ねっとわあく』編集係 行

(ふりがな) 前名 お住所 〒 年齢 歳  
※ 差し支えなければ、お名前と年齢を記入してください。

町 番 号  
丁 田 区 市 町 村  
都 府 県

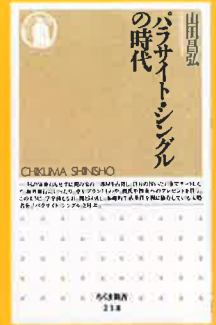
TEL FAX

# もっと知りたいあなたへ… 本の紹介

## 『パラサイト・シングル の時代』

山田 昌弘  
ちくま新書

巻頭で紹介した山田昌弘さんの著書。  
自立と苦労を厭い、現状維持を望むパラサイト・  
シングルの生態を分析することにより、未婚化、  
少子化現象、経済不況を、精緻な社会調査をもと  
にわかりやすく解説し、変わりゆく日本社会の未  
来像にまで迫る。 (660円)



若者が「依存した子ども」から「自立した市民」と  
なる過程での責任が、家族から国家へと移行してい  
くことについて、英国のケースをもとに検討したも  
の。「大人になる」とは、どのような意味を持つのか。  
基本的な疑問から出発し、その意味をさぐっていく。  
巻末では、家族変動論など社会学を専門とする監  
訳者により日本の状況の分析が簡潔明瞭になされて  
いる。 (2,800円)

## 『若者はなぜ大人になれ ないのか 家族・国家・ シティズンシップ』

G・ジョーンズ C・ウォーレス  
宮本みち子 監訳 徳本 登 訳  
新評論

## 『パラサイト・シングル』

さらだたまこ  
WAVE出版

パラサイトという迷路に迷い込み、突破口を見  
つけようとしている女性たちの等身大の心情を綴  
ったもの。パラサイトする娘たちの、それぞれの  
パラサイトする理由、悩み、考えなど、その心の  
内側が伝わってくる。  
著者自身も、多忙な仕事と恋の間に揺れながら、  
両親のもとでパラサイトをしている。(1,400円)



上記の本はあざれあ図書室で借りることができます。

アンケート ○をつけてください。

■ どちらで入手されましたか。 (当方でお送りした場合は)  
DMに○をつけてください。

DM・その他 ( )

■ 『ねっとわあく』をお読みになるのは初めてですか。

初めて・ ( ) 回田・毎号

■ どの企画に興味を持たれましたか。

( ) ( ) ( ) ( )

■ これから取り上げて欲しい企画や今号のご感想、その他ご  
意見などがありましたら何でもご記入をお願いします。

ご協力ありがとうございました。  
メッセージを『ねっとわあく』誌上でご紹介する場合があります。  
ペンネームをご希望の方は、記入してください。(ペンネーム )

## 読者の声

沼津のパレットで手にした『ねっとわあく』  
を読み、皆様、人生を真剣に考え生きてい  
ると思えました。1回しかない人生。チャレン  
ジすることの大切さを感じています。高齢社  
会になっても高齢者が生き生きしている、そ

# 「誰かのため」から「自分のための人生」へ

あざれあ相談室では、女性の生き方にまつわるさまざまな問題や悩みについて、自分自身で解決できるように一緒に考える支援を行っています。相談の中から「母親と娘」の関係について考えてみます。

母と娘の関係は、同じ女性、同じ家族、最も近くにいる存在であるがゆえに、さまざまな悩みをもたっています。

「今まで自分のことは我慢して一生懸命育ててきた娘には幸せな結婚をしてほしい」「これからの女性は社会に出て経済的にも自立してほしい」「娘のことは誰よりも母親の私が一番知っている」「私にできなかったことを娘にかなえてほしい」など、母親は娘にさまざまな思いや夢を託しています。

また娘は、「母親の愛情はとてもよくわかるしありがたい」「口うるさいけれど母親の言うことに間違いはないし、従うのは親孝行だと思っから……」と、託された思いに応え「いい娘」を演じようとします。しかし、「恋愛がうまくいかない」「結婚したくない」「親が決めた進路と就職だったけれど、何か違う」「自分にやりたいことが出てきたけれど、どうしたらよいかわからない」などと、いつの間にか母の期待と娘の夢がすれ違ってしまっているのではな

\*\*\*

## あざれあ相談室

### 電話相談

毎週月曜日～金曜日(祝日・年末年始を除く)  
9:00～16:00  
相談員(女性)が相談にのります。

### 面接相談

相談電話で予約の上、お越しください。  
**女性のための人権・法律相談**  
第1・第3火曜日(休館日の場合は翌週)  
13:00～16:00  
弁護士(女性)が専門的なご相談に応じます。

### 相談電話番号

東部地区 0559-25-  
下田地区 0558-23-  
中部地区 054-272-  
西部地区 053-456-  
各地区からあざれあへ転送しています

なやみなく  
7879  
(共通)

子どもを産み育てることで一生を終えていた時代、夫を支え家庭を守ることを女性に求めてきた時代、そしてそれらが混在する現代を生きた母と娘。母親と娘の関係に「あるべき姿」という決まったかたちはなく正解はありません。母親のために、娘のためにといった誰かのための人生ではなく、自分のための人生を考えてみましょう。母と娘が一人の自立した女性として対等につきあえる関係を築いていけるといいですね。

## 募 集

『ねっとわあく』を読んで

ご意見・ご感想を、おはがき、FAXなどでお寄せください。

宛先

静岡県女性総合センター  
『ねっとわあく』編集係  
〒422-8063  
静岡市馬淵1丁目17-1  
FAX 054-255-9266  
e-mail  
azarea@shizuokanet.ne.jp

姫路市 石原きく子

姫路では、「男女共同参画社会を学ぶ会・アプローチ」を発足させました。12名程度の学習会ですが、条例づくりまでできたかと考えています。その中で、資料として『ねっとわあく』はよくできていっていると評判です。編集者のご努力にお礼申し上げます。

インタビューも自然体でおもしろいし、創作童話も一気に読んでしまいました。情報も質・量ともにいいですね。こういう雑誌を県が出すこと、そして仲間が男女関係なく増えてくることは、心強く、楽しい気持ちになります。東京都 佐藤宏子

「ねっとわあく」No.36で親がかり姫を読み親の言いなりになっていけば、楽で責任もなく、これほど良いことはありません。ただ、親がいなくなったら心細くなるでしょう。自分で決めて、自分に合ったものを伸ばしていけばよいと思っています。今、絵に夢中です。夢中になれるものがあれば、人生最高でしょう。静岡市 新津美津恵

ういう場所を提供できる人間になりたいと思っています。 富士市 宮崎若代

# 編集員ぶぶ話

## 記事では語れないそんな話のぞいてみましょう

取材で、最近では中国でも離婚が増えているという話題になり、そこで肖虹さんがひと言、「男女の愛が薄れてきているから」。今の時代、結婚して愛をすり減らすものなんだろうか。じゃあ、家庭崩壊は家族への愛が、親子関係のゆがみは親または子への愛が、薄れて起こっているのかな、などと考えをめぐらせた私。「愛はもらうものではなく、与えるもの」とは誰の言葉だったか。柄にもなく、アンニュイ（物憂い気持）になってしまいました。

藤枝市 永野香里

企画会議にて「バラサイトから脱却した人を探して、話を聞こう！」と張り切っていた私たち。ところが、どこを探してもそんな人が見つかからない。えっ、そんなにみんな親子が寄りかかって生きていたの!? 改めて驚き自分自身も反省した次第です。私は違うわという方、是非あざれあまでご一報を!

静岡市 前田純代

「成人したら、追いつきますよ」と、山田昌弘さんは笑った。デスクの上にはお子さんの写真。「やだ、ずっと一緒に暮らす」と、小さい娘さんは言うらしい。私も、そのときには「時期が来たのよ」と、子どもたちを追い出そう。そんなことを思っ、取材先の大学を後にした。

静岡市 小路妙子

親の後ろ姿を見せて一生懸命生きている人がいる。あたたかい思いやりの心が子育てにも、仕事にも、遊びにも大切なんですね。そして、「楽しむこと」で生きるエネルギーになるのかも。何でも楽しくやりましたよ!

浅羽町 飯田せつ子



動物たちのカワイイ子育て事情を取材するはずが、思わず文章にするのをためらってしまってお話も。巣立つ子が甘えてくれば、親がかみ殺す場合もある。「自立」できなければ生きていけないというシビアな世界を覗いた後は、文章を書くことの難しさ、楽しさを今夏体験しました。

静岡市 久保田さきの

西暦2000年を迎え『ねっとわあく』は、表紙も新たに再出発します。これからも、時代を見据えながら、男女共同参画社会に生きる女と男の情報を提供します。

創刊以来、前号まで表紙をデザインしてくださいました小杉思主世さんに深く感謝申し上げます。

編集アドバイザー 大国田鶴子さん

発行 平成12年10月

編集 静岡県生活・文化部男女共同参画室  
静岡県女性総合センター

住所 〒422-8063 静岡市馬淵1丁目17-1

TEL 054-250-8107

FAX 054-255-9266

ねっと  
わあく  
NO.37

R80

古紙配合率80%再生紙を使用しています

『ねっとわあく』は年2回発行 県行政センター、県内女性センター、市役所、公立図書館、公民館などで配布しています。